

◆ 支援の流れ

◆ 「出会いの授業」の実施に向けた支援

		令和3年 6月	7月	
地域支援	運営支援	「出会いの授業」(聴覚障がいと手話)について、学校から相談	橋本さん・伊倉さんに講師依頼・調整	事前打ち合わせ(橋本さん・伊倉さん・学校の先生・社協)
				7/8「出会いの授業」の実施

		令和3年 11月	12月	令和4年1月
地域支援	運営支援	「出会いの授業」(聴覚障がいと手話)学校とのふりかえり	「出会いの授業」(車いすバスケット)について学校から相談	事前打ち合わせ(学校の先生・社協)
			車いすバスケットの選手に講師依頼・調整	事前打ち合わせ(車いすバスケット選手・社協)

Ⅲ まとめ

今回は「聴覚障がいと手話について」をテーマに「出会いの授業」をおこなったが、それだけでなく、コミュニケーションにおいて、まずは“相手に伝えたい気持ちをもつことの大切さ”や、橋本さんと伊倉さんのやり取りから、“信頼関係”や“支え合いの関係づくり”についても感じ取ってもらうことができた。

また、いがまちには3つの小学校(西柘植小学校・柘植小学校・壬生野小学校)があり、そこでは「三校交流会」として、児童たちが学校で学んだことを伝え合う機会がある。そこで、今回の「出会いの授業」の取り組みを発表し、他校の児童との学びの共有や一緒に手話を体験するなど、西柘植小学校での福祉教育の取り組みが柘植小学校・壬生野小学校にも伝わり、いがまち内で福祉教育の輪が広がっており、CDとしても大変嬉しく感じている。

令和4年1月にも、「車いすツインバスケットボール」をテーマにした2回目の「出会いの授業」を予定していたが、コロナの感染拡大の影響により、やむを得ず中止となった。西柘植小学校の4年生の子どもたちは、スポーツに興味関心のある子が多く、また令和3年には東京パラリンピックが開催されたこともあり、パラスポーツにも関心をもった子もいた。そこで今回はスポーツを切り口に、「障がいの有る無しに関わらず、スポーツで輝けることを知ってほしい！」といった先生の思いから、「出会いの授業」を予定していた。今後、コロナの感染状況が落ち着いたら、ぜひまた機会をつくって車いすバスケットの「出会いの授業」を実施できればと考えている。

今回の「出会いの授業」は、私自身がCDになってから初めての福祉教育の実践だったため不安もあったが、学校の先生が“子どもたちが関心のあること”をすばやくキャッチし、福祉教育プログラムとして相談してくださったため、子どもたちの「知りたい！」に寄り添うことができ、授業にも積極的に取り組んでもらうことができた。

今後も、学校の先生や地域の皆さんの想いを聴かせていただきながら、十分に打ち合わせをおこない、互いの目的を共有しながら、一緒に福祉教育プログラムの実践をおこなっていきたい。

手話で自己紹介
(自分の名前と
簡単なあいさつ)



いがまち三校交流会の様子

I きっかけ

博要地域福祉ネットワーク会議（以下、NW 会議）に出席している中で、地域住民の高齢化がすすみ、ふれあい・いきいきサロン（以下、サロン）の運営支援や居場所の設置、移動、配食事業の設置等、さまざまな地域課題が増えてきたため、その都度支援をおこなっていった。

II 支援の流れと成果

1期目 ふれあい・いきいきサロンへの運営支援

サロンへの運営支援は、社会福祉協議会（以下、社協）が実施しているふれあい・いきいきサロン支援事業助成金の申請が利用できることを案内し、財源確保の支援をおこなった。

申請をしたことにより、今まで実施していなかった内容でサロンをおこなうなど、運営も充実し活動の幅を広げているように感じている。

また、老川区の新規サロン立ち上げに向け、地域福祉コーディネーター（以下、CD）も準備委員会に参加し、長く継続していけるサロンにしたいとのスタッフの想いを大切にしながら支援をおこなった。準備委員会から一緒に進めてきただけに、令和3年4月に初回サロンが開催された際には、たくさんの方が参加され、一緒に忍にん体操をおこなったことは、とても楽しい時間であった。

また、サロン開始後の運営委員会にも CD が参加し、コロナ禍でのサロンの進め方等についてアドバイスをおこない、見守りを兼ねて次回の内容を案内するために訪問型のサロンも取り入れることになった。

2期目 お買い物、移動に関する支援

近くにお買い物をする店がない等の課題については、CD が移動販売業者に相談し調整をおこなった。

地域と移動販売業者をつないだ結果、サロンが開催している時間に合わせて移動販売車が会場に来るようになり、サロンに来てお買い物ができる一石二鳥のサロンが実施されるようになった。

また、青山地域高齢者日常生活支援運営協議会（以下、運営協議会）が運行している無料お買い物バスを利用したいが、自宅からバス停までの距離が遠く利用しづらいとの声が聞かれたため、運営協議会の会議で地域からでた要望等について情報共有をおこなった。

情報を共有したことにより、バス運行ルートの改善が検討された。その結果、利用しづらかった地区にバス停が新設され、安心して利用ができるようになった。

3期目 配食サービスの立ち上げ支援

地域の高齢化により、一人暮らしや高齢者のみの世帯が増えてきたため、栄養状態を不安視する声が増え、見守りを兼ねた配食サービス事業の立ち上げが検討されることになった。

CD として、事業立ち上げ時の申請やボランティア保険等について情報提供等をするなど、食事サービスボランティアグループの立ち上げ支援をおこなった。

配食サービス事業は、令和2年3月から本格的に開始され希望者が増えてきたこともあり、対象者を広げるなどサービスの拡大につながっている。

◆ 支援の流れ

1期目 ふれあいいきいきサロンへの運営支援

1期目		4月	5月	6月	7月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営支援	令和元年度			●		サロン助成申請支援	●		●		
立上支援	令和2年度				準備委員会		アンケート調査			準備委員会	準備委員会
運営支援	令和3年度			老川ほっこりサロンスタート	●	●	サロン開催		●	サロン開催	
				運営委員会			運営委員会		運営委員会		

●は、令和元年～令和3年までのNW会議開催日

2期目 お買い物、移動に関する支援

2期目		7月	10月	11月	12月
立上支援	令和元年度		移動販売業者との調整		サロン開催時に会場に移動販売車がくる
	令和3年度	お買い物バス会議	国見バス増設		

3期目 配食サービスの立ち上げ支援

3期目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
立上支援	令和2年度				アンケート調査				準備委員会	試作	試食弁当配布	準備委員会	事業開始
地域支援	令和3年度	配食事業	配食事業	配食事業	配食事業		配食事業	配食事業	配食事業	配食事業	配食事業	配食事業	配食事業
		会議				会議					会議		

Ⅲ まとめ

博要地区に携わって4年目になり、近年は、居場所づくりの充実、買い物等の移動課題、配食サービス事業等について一緒に考え支援をおこなってきたが、他にも色々な相談もある。

例えば、社協の事業を通じて、移住者から地域食堂を開きたいとの相談があった。まずは、移住者が地域とのつながりをもつために、CDが自治協会長との顔合わせをするために日程調整をおこない、お互いの存在を確認し合う機会をつくった。その場では、両者の活動内容や協力できること等について話し合われた。その後、自治協から移住者に協力依頼をし、連携して一緒に活動をおこなっているイベントもある。



老川ほっこりサロンの様子

博要地域福祉ネットワーク会議の様子



博要地域は、移住者がたくさん住んでいるところでもあるので、これからも地域とのつながりを継続しながら、協働していけることを一緒に考えていければと思っている。

また現在、食事サービスボランティアが中心となり協議している地域食堂の実施や地区市民センターを活用した毎日型コミュニティカフェの開催事業等についても、地域にある資源を最大限に活かしつつ、人とのつながりや関係機関との連携等を大事にし、地域に寄り添いながらともに歩んでいければと考えている。

■福祉教育の取り組み

事例12. 「自分の地域を知ることから始まる福祉教育」
～ふくし・ちいきクイズは、きっかけづくり～

地域支援課 地域福祉コーディネーター 中川 健太郎

I きっかけ

例年、民生委員の協力を得ながら、実行委員会が中心になり企画している「みんなあつまれ！あおやまの子ども」事業は、子どもたちが地域と福祉に関心をもつためのきっかけづくりを目的として実施してきた。

しかし、令和2年度から新型コロナウイルスの影響により会場で集まった開催が難しくなった。それでも、地域福祉コーディネーター（以下、CD）としては子どもたちに地域活動や福祉に関心をもってもらいたいとの思いから、代替事業として「あおやまふくし・ちいきクイズ」をおこなうことを提案し、すすめていくこととなった。

II 支援の流れと成果

1 期目 関係機関との連携

「もっと青山地域のいいところや施設、資源等を知ってもらいたい」という実行委員の思い等を踏まえ、昨年実施した福祉に関するクイズだけでなく、青山地域に関するクイズも加えて事業をおこなうことにした。

また、クイズの作成においては、小学生に知ってもらいたい地域の行事や習わし、資源等に関する内容を教えてもらうために、CDが青山公民館を通して、各住民自治協議会（以下、自治協）の会長や事務局長に協力依頼をした。

また、青山小学校長からは、特に低学年の子どもたちは、問題用紙と解答用紙が別々になっていることに慣れていないとの助言を受け、問題用紙に解答を記入してもらう形式に変更するなど、子どもたちが参加しやすいクイズを作成していった。

このように、関係機関と協議をおこない連携したことによって、福祉に関するものが7問、地域に関するものが3問の内容で、昨年よりも地域をより身近に感じることができ、さらには家族と一緒に取り組めるクイズに仕上がったと感じている。

2 期目 事業の実施

令和3年9月6日に青山小学校全校生徒（低学年172名・高学年211名）に向けて「あおやまふくし・ちいきクイズ」を配布した。

令和3年10月29日に回収したところ、回収率は低学年（1～3年生）98%、高学年（4～6年生）96%と高く、去年よりも多くの子どもたちが参加してくれたことは大変嬉しく思っている。またその要因としては、自分たちの住んでいる地域に関することが出題されたことで興味を持ってもらえたことと、クイズ形式で楽しく取り組めたことが、回収率の高さにつながったと考えている。

Q9. ^{あおやま ちいき}青山地域にたくさんの神社がありますが、^{じんじゃ}上津地区にある神社は次のうちどれでしょうか？

1 ^{おおむら じんじゃ}大村神社

2 ^{ひ び き じんじゃ}比々岐神社

3 ^{い が とう しょうぐう}伊賀東照宮



A. 2

※配布した「あおやまふくし・ちいきクイズ」の一部

◆ 支援の流れ

1 期目 関係機関との連携

		令和3年 4月	5月	6月	7月	8月
地域 支援	運営 支援		第1回実行委員会 学校長との打ち合わせ	第2回実行委員会	自治協にヒアリング	

2 期目 事業の実施

		令和3年9月	10月	11月
地域 支援	運営 支援	ちいき・ふくしクイズ 配布(アンケート実施)	ちいき・ふくしクイズ回収、 参加賞、解答配布	

3 期目 事業のふり返りから

		令和3年 12月
		第3回実行委員会 (振り返り)

3 期目 事業のふり返りから

令和3年12月に、実行委員会でふり返りの会議をおこなった。

子どもたちの感想の中には、「地域から福祉のことまで広いジャンルで面白かった」や「青山のことをもっと知りたいと思った」「地域のことがたくさん知れた。自分があまり地域のことを知らないとわかった」など、学ぶことに対して前向きな意見をたくさん聞かせてもらったので、来年度に向けて継続して実施していくべき事業であることを改めて実感した。

Ⅲ まとめ

今回の事業は、子どもたちに地域と福祉に対して関心を持ってもらうことが目的であるが、この企画だけでは、将来的に福祉に関する職に就いたり、青山に残って地域を元気にしたいと考える子どもたちが、簡単に増えるわけではない。しかし、アンケートから分かるように、この事業を継続していくことで、少しでも自分の住んでいる地域のことを知り、興味を持つ子どもたちが増えればと思っている。

また、社協の事業に関わった子どもたちが、思いやりのある心を持って人と関わり、安心して住みやすい青山地域になるように盛り上げていってもらえるような人材に育つことを願っている。

今後も、地域の方や関係機関等との関わりを大事にしながら、自分の住んでいる地域の素晴らしさを未来に継承していける担い手を育成していければと考えている。

Q7. エレベーターの中に大きな鏡がついています。なんのためでしょうか？

- 1 髪の毛や洋服などの身だしなみを整えるため
- 2 狭いエレベーターを広く見せるため
- 3 車いすの人が後ろ向きで出るときに後方を確認するため



A. 3

※配布した「あおやまふくし・ちいきクイズ」の一部

「伊賀流 “全員力(ぜんいんりょく)” のはぐくみ術」

皇學館大学 現代日本社会学部准教授 大井智香子



伊賀市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター(以下、CD)の実践活動には注目すべき点がたくさんあります。

ご存知のとおり伊賀市は平成16年に6つの市町村が合併し、面積が広大であるだけでなく地勢や地域特性も実に多彩でそれぞれの地域に固有の歴史と風土、生活文化があります。CDのみなさんは各地域における固有の課題や必要とされていることを見つけ、実に丁寧に事業に取り組んでいます。CDの役割である地域支援と個別支援の双方を交差させるしなやかな実践です。これは実は稀なことだと考えています。近年、全国を見渡すと個別支援に力を注ぐ傾向が感じられるなか、伊賀市では地域のつながりづくり(組織化)をふまえて個別支援に取り組まれているのです。長年にわたり地域課題と向き合い、住民のみなさんとともに積み重ねてきた実践があるからこそできる専門的な支援だと思えます。

2020年以降の新型コロナウイルス蔓延は、これまでの地域福祉実践の方策がほぼ封じられてしまう事態を招きました。苦境にあって、伊賀市のCDの工夫や活躍は輝きを放ち、私たちに希望をもたらしてくれました。その実際は、本報告書に記されておりです。

ご覧いただいているとおり、この報告書はCDのみなさんが分担して執筆しています。業務だけでなく執筆も分担している、これもすばらしいことと思えます。事業実践に取り組みながら、その実践を書き留め発信し続ける努力は並大抵のことではありません。多くの方に伝わるよう言葉を選び表現していくことで、社協組織として、またCDとして目指していること、それぞれの地域社会のめざす「地域共生社会」の姿を一層意識することにつながります。

そんなすごい報告書の刊行は今年で4年目となります。実践の蓄積、執筆しているCD個々の専門性の蓄積、そして各々の地域社会において取り組まれた“全員力(ぜんいんりょく)”育ての歩みそのものでもあります。取り組みのプロセスは書き残しておかなくては消えていってしまいます。その事業に直接かかわった人たちや担当者が変わると、「なぜ」「いつから」「どうやって」を知る機会が激減してしまい、それは事業の形骸化にもつながります。本報告書は、今後さらに輝きを増すであろう貴重な地域資源でもあるのです。

令和3年度から、伊賀市においても「重層的支援体制整備事業」がスタートしています。わが町、わが地域における「地域共生社会」とはどのような状態を指すのか、実現したいことは何か、それはどのように取り組むのか。それぞれの地域で具体化していくために、地域社会の“全員力”が必要となるでしょう。みんながそれぞれ、できる場面で、できることに少しずつ取り組むしなやかな役割分担、つながりづくりと仕組みづくり。CDの一層の活躍が期待されています。CDの実践をはぐくむのは住民のみなさんです。

そんな伊賀流“全員力”のはぐくみ実践に、これからもご一緒させてください。

◆地域福祉ネットワーク会議 設置状況

令和4年3月31日 現在

地区	自治協	地域福祉ネットワーク会議名	設置年月日					
			～H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
上野	上野東部	東部地域福祉ネットワーク会議			H30.9.20			
	上野西部	上野西部地域ケアネットワーク会議	H24.3.26					
	上野南部	地域ケア・ネットワーク会議	H21.12.21					
	小田	いきいきネット小田	H28.3.31					
	八幡							
	久米	久米地域ネットワーク会議（くめの輪会議）		H29.9.14				
	花之木	花之木地区福祉ネットワーク会議	H29.3.2					
	長田	長田地域福祉ネットワーク会議（なのはなネット）	H29.2.20					
	新居	新居地区ふくし情報交換会	H28.7.19					
	三田	三田地域福祉ネットワーク会議		H30.1.19				
	諏訪	諏訪住民自治会地域ケアネットワーク会議	H28.2.16					
	府中	府中地区福祉ネットワーク会議	H27.4.1					
	中瀬	中瀬ふくしネットワーク会議		H29.12.5				
	友生	友生地区福祉ネットワーク会議	H28.3.25					
	猪田	猪田地区福祉ネットワーク会議	H25.3.6					
	依那古	依那古地域福祉ネットワーク会議			H30.5.18			
	比自岐	比自岐地区ネットワーク会議	H26.2.3					
	神戸	神戸地区支え合いネットワーク協議会	H25.7.24					
	古山	古山地区福祉ネットワーク会議 （高齢者支援状況報告会）	H24.11.8					
	花垣	はなまるネット			H31.3.19			
	ゆめが丘							
	きじが台	きじが台地区住民自治協議会 地域ケア部会	H28.4.1					
島ヶ原	島ヶ原	島ヶ原地域生活環境改善会議	H26.12.10					
大山田	山田	「山田せせらぎ」ケアネットワーク会議	H28.3.22					
	布引	布引地域住民自治協議会 布引「清流の里」ケアネットワーク会議	H28.2.18					
	阿波	阿波地域ケアネットワーク会議「まごのて」会議	H27.12.9					
伊賀	柘植	つげふくしネット	H28.6.22					
	西柘植	西柘植福祉ネット		H30.2.5				
	壬生野	壬生野福祉ネット			H31.2.19			
阿山	河合	河合地域福祉ネットワーク会議		H29.12.14				
	鞆田	鞆田地域福祉ネットワーク会議			H30.11.12			
	玉滝	玉滝地域福祉ネットワーク会議		H29.4.21				
	丸柱	丸柱地域福祉ネットワーク会議	H28.8.11					
青山	阿保	阿保地区「わいらのまち」地域福祉ネットワーク会議			H31.3.27			
	上津	上津地区住民自治協議会地域福祉ネットワーク会議				R1.12.11		
	博要	博要地域福祉ネットワーク会議	H25.10.1					
	高尾	高尾地区地域福祉ネットワーク会議	H25.3.8					
	矢持	矢持地域ケアネットワーク会議	H22.1.21					
	桐ヶ丘	桐ヶ丘地区高齢者・障がい者互助ネットワーク委員会	H22.12.19					
合計	■全市(39地区)うち設置地区 (%)		18地区 46.2%	30地区 76.9%	36地区 92.3%	37地区 94.9%	37地区 94.9%	

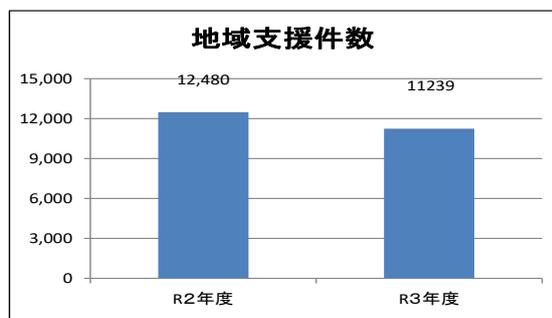
数字でみる、地域福祉コーディネーター活動と地域福祉活動

◆地域福祉部地域支援課 活動統計報告 (R2年度～R3年度)

◆支援内容		R2年度	R3年度
1.地域支援件数		12,480	11,239
2.個別支援件数		2,679	2,494
種別	□介護高齢	1,584	1,549
	□障がい	409	271
	□子育て	26	18
	□経済困窮	234	248
	□その他	199	343
	□ひきこもり		103
3.ボランティア対応件数		870	701
4.相談対応件数		4,247	3,023
5.アウトリーチ件数		5,251	5,122

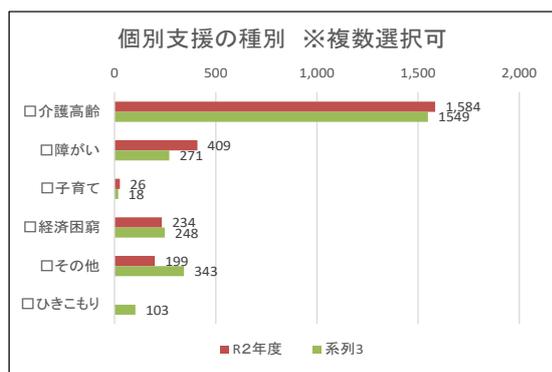
- ・上の表は、R2年度、R3年度の地域福祉コーディネーター（以下、CD）がおこなった支援内容の総数である。
- ・H30年度から業務日報の記入の手引きを作成し、業務日報のつけ方を統一した。R3年度も引き続き、業務日報の記入の手引きを更新しており、CDによる業務日報のつけ方のばらつきも減少してきている。手引きを作成したことにより項目が明確化され、活動統計報告の精度を向上することができた。

1.地域支援件数



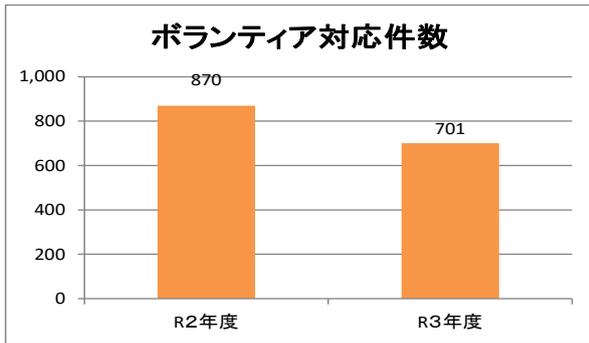
・R2年度からR3年度にかけて約1,200件ほど減少している。これはCD13名の内、4名はR3年4月から初めてCD業務を担当することになったため、試行錯誤しながら徐々に地域支援を実施していったことが理由に挙げられる。また、R3年度は、新型コロナウイルス（以下、コロナ）感染拡大防止に伴うまん延防止措置などの影響により、各種の地域福祉活動が制限され、その要因も数字に表れていると考えられる。

2.個別支援件数



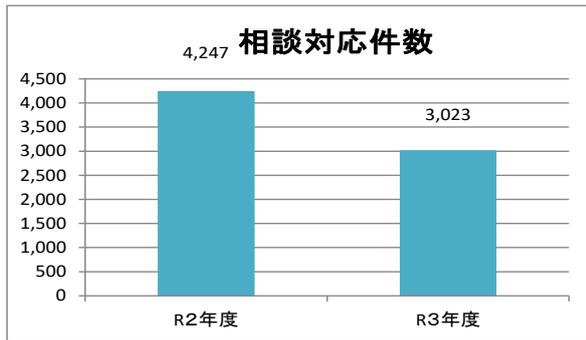
・R2年度からR3年度にかけて約180件ほど減少している。これは先述のようなCD4名による減少要因と、コロナ感染拡大防止に伴う緊急事態宣言などの影響によるものと考えられる。また「障がい」は地域包括支援センターなど、他の相談機関もあるため、相談援助件数は減少している。R3年度から追加した「ひきこもり」は103件あり、今後もひきこもり相談支援は継続するため増加が見込まれる。

3. ボランティア対応件数



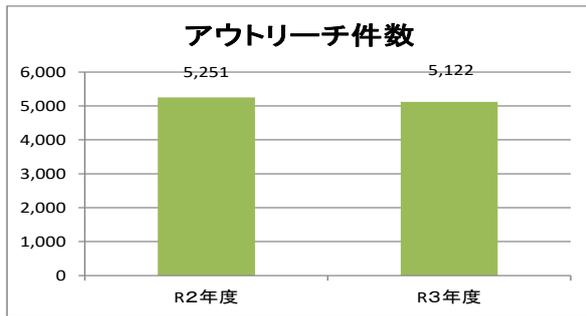
・R2年度からR3年度にかけて約170件ほど減少している。これは先述のようなCD4名による減少要因と、コロナ感染拡大防止に伴うまん延防止措置などの影響によるものと考えられる。また、ボランティア対応については、つけ方の見直しにより、他の項目への振り直し分が含まれていると考えられる。

4. 相談対応件数



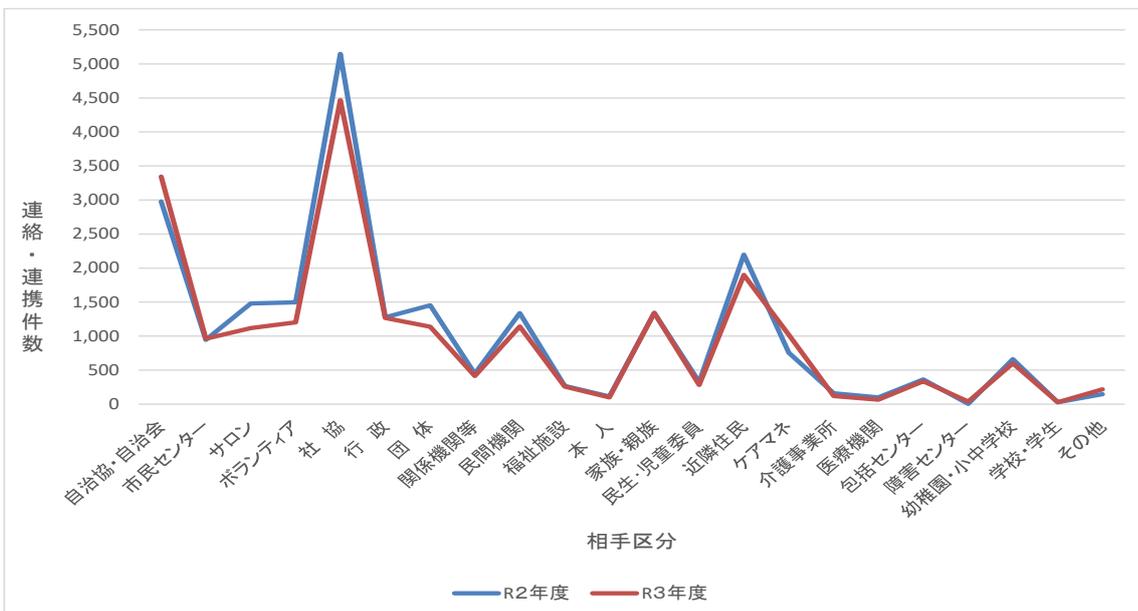
・R2年度からR3年度にかけて約1,200件ほど減少している。これは先述のようなCD4名による減少要因と、コロナ感染拡大防止に伴うまん延防止措置などの影響により、地域支援や個別支援の機会が減少し、それに伴って各種の相談援助を実施することが制限されたためと考えられる。また、相談対応については、つけ方の見直しを随時行っているため、他の項目への振り直し分が含まれていると考えられる。

5. アウトリーチ件数



・R2年度からR3年度にかけて約130件ほど減少している。これは先述のようなCD4名による減少要因と、コロナ感染拡大防止に伴うまん延防止措置などの影響によるものと考えられる。また、つけ方の見直しも随時行っているため、他の項目に振り分けられたものもあり、それらの影響で減少していると考えられる。

6. 連絡・連携件数（相手区分）





① 交流会の主旨について

伊賀市では、すべての住民が住みなれた地域で安心して暮らし続けることができ、相互に助けあえるお互い様の地域づくりを目指しています。

伊賀市内で設置された地域福祉ネットワーク会議相互の情報共有や地域福祉活動の実践発表をとおして、住民同士で地域生活課題を解決していくための地域づくりの学びの場、さらなる住民主体の地域づくりの推進を目的に開催します。

② 開催概要について

1. 対象者 地域福祉ネットワーク会議関係者、住民自治協議会、関係機関等
2. 開催日時 令和3年8月6日(金)19:00~20:30
3. 場 所 大山田農村環境改善センター
4. 内 容 「第4次地域福祉計画と第4次地域福祉活動計画について学んでみよう」
 - ①第4次地域福祉計画 / 説明:伊賀市医療福祉政策課 主幹 松田 聖 氏
 - ②第4次地域福祉活動計画 / 説明:伊賀市社会福祉協議会 事務局長 田邊 寿
5. 参加者数 37名

③ 研修内容

① 第4次地域福祉計画について

講師/伊賀市医療福祉政策課
主幹 松田 聖氏

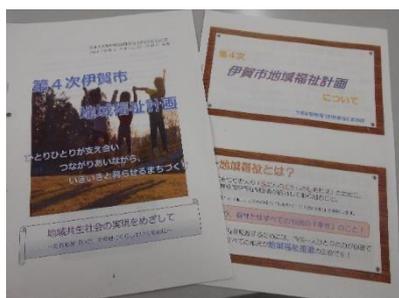


講演1「第4次地域福祉計画について」

第4次地域福祉計画の本編は130ページほどあり、この度の研修ではダイジェスト版が参加者へ配布された。

参加者全員で「こんな状況になった場合、あなたならどうしますか」という具体的対策を考えるワークを実施した。「困っている人がいたら助ける」という意見に参加者のほぼ全員から挙手があったが、反対に自分が困っている時に自ら「助けて」と言える人の挙手は少なかった。

「支える側」「支えられる側」という枠組みにとらわれず、すべての人が「助けられ上手」になることや、人と人との支えあい地域共生社会の構築にとって必要なことだという内容が伝えられた。



② 第4次地域福祉活動計画について

講師/伊賀市社会福祉協議会
事務局長 田邊 寿



講演2「第4次地域福祉活動計画について」

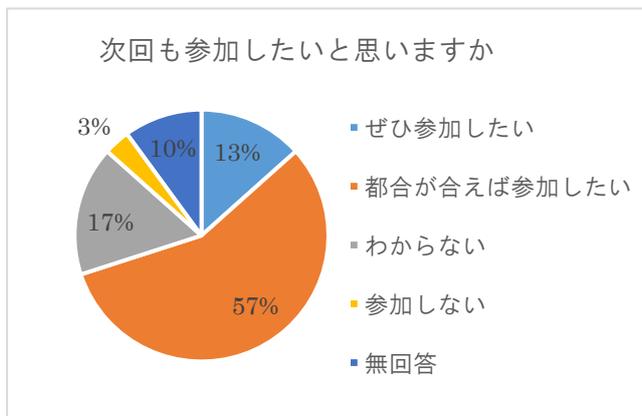
地域福祉ネットワーク会議で今後目指すところは、地域福祉をどう進めていくかという事にポイントが当てられる。

社会福祉協議会が策定した第3次までの計画では、地域福祉ネットワーク会議を各地域で設置すること、地域への支援体制やしきみづくりを整えることを重点的にした計画であった。

第4次地域福祉活動計画では、「何のために地域福祉活動を行うのか」ということや「解決すべき生活課題」を具体的に考えていく計画である。

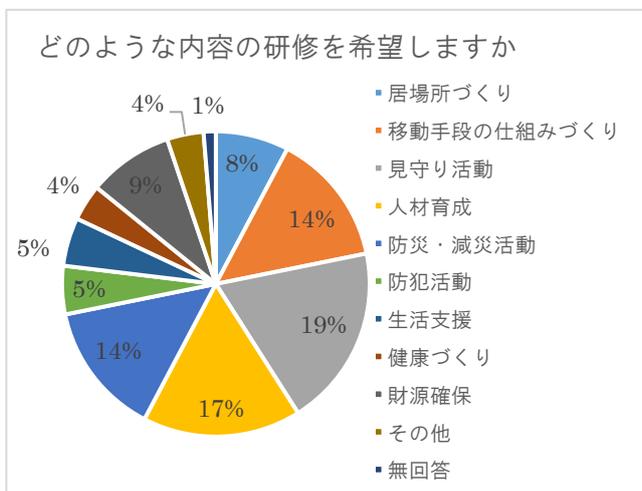
地域福祉ネットワーク会議関係者以外の人たちに、当活動計画の内容をどのようにつなげ伝えていくか。そのための仕組みづくりが必要である。また、計画を実行するにあたり、より多くの人たちの共感を得ることが重要であることが話された。

④ アンケート集計について



「当日参加者にアンケートを取りました」

【次回も参加したいと思いませんか】の問いに、30名からの回答があった。「都合が合えば参加したい」が「17名」で57%と最も多く、次に「ぜひ参加したい」は「4名」13%と多かった。「わからない」と回答した人は「5名」の17%だったが、全体的に「参加したい」と答えた参加者が半数を超えた結果となった。



次に【どのような内容の研修を希望しますか】の問いに、78人分の回答があった（※複数回答可の項目のため参加人数より多い回答数となっている）。「見守り活動」が「15名」の19%と最も多く、次に「人材育成」が「13名」の13%。「移動手段の仕組みづくり」と「防災・減災活動」が「11名」の14%と同じ数値となった。

担い手研修Ⅰ 地域食堂研修会

～みんなで子どもを支えていける地域に～ 子ども食堂(地域食堂)

子ども食堂(地域食堂)は、全国で約5000か所あります。三重では登録団体がコロナ禍でも36か所から50か所に増えました。食事提供は無料または実費程度、運営者は地域の民生委員や学生・飲食店・寺などさまざまで、それぞれが子どもの安心できる場を作っています。食事のほかにも、子どもの心の支えになるような取り組みをしているところがあります。子どもの居場所やいろんな問題を抱える子どもの支援の橋渡し、世代間交流、地域のコミュニティづくりなど、親にも子にも大切な場で、地域の活性化にもつながっています。小学校区に1つくらいあって、みんなに理解や協力をしてもらえようになればいいですね。

また、保護者にとっても、月1回の子ども食堂が唯一ホッとできる場所であり、子育て中で自分が何を食べたかわからない位忙しく、「久しぶりに座って食べた」というお母さんもいます。「親たちに食べさせるのは甘やかしでは？」と言われることがあります。人はみんな甘えあって生きているのではないのでしょうか。甘えて、許される場所があってもよいのではないかと思います。

核家族化がすすみ、塾などで忙しい子どもたちは、大人と出会う機会が少なくなっています。家族ではないけれど、親身になってくれる年上の人との斜めの関係を作ること、信頼関係ができてきます。そこで出会う大学生や大人が良いモデルケースとなり、いろんな人と出会い、選択肢を広げていくことができます。

子どもたちにとっては、いまこの瞬間が大切。小さなことを実行し、みんなに伝えていくことが、私たちにできることです。みんなで子どもを支えていける地域になればと思っています。



NPO法人 太陽の家
理事長 対馬あさみさん
(三重県子ども食堂ネットワーク代表)

伊賀市内の「地域食堂」を一部ご紹介します♪

- ①場所
- ②開催状況
- ③対象者

東部地域住民自治協議会地域食堂「パプリカ」

- ①上野東部地区市民センター
- ②毎月第2日曜日
10:00～13:30
- ③小学生、大人(年齢制限なし)



南 徹雄さん

コロナ禍で中止期間もありましたが、食の提供や学習、世代間交流を進め、今後福祉施設にも声掛けするなどつなぐの輪を広めたいです。

ふちゅう地域食堂

- ①府中地区市民センター
- ②年4回程度(計画中)
- ③府中地区内の小学生以下の親子、高齢者



中森 弘美さん

今年3月に、バルーンアートやレクリエーションなどを企画してスタートしました。今後、毎月開催できる体制を作っていきたいです。

ひじきコミュニティカフェ

- ①比自岐地区市民センター・コミュニティセンター
- ②年2回程度
- ③比自岐地区内の住民



中西 加代子さん

カレー、サラダ、デザートを参加者と一緒に作り、世代間交流しています。ランチができるカフェの実現に向けて、コツコツと進めていきたいです。

子ども食堂わいわいがっこ

- ①おあいこ中町サテライト
- ②毎月第3日曜日
- ③上野西小学校区の子どもと家族、一人暮らし高齢者



浜崎 佐知子さん

コロナ禍で会食からテイクアウト方式に切り替え、フードパントリーも実施しました。活動を通してさまざまなことを伝承していける場を作りたいです。

担い手研修Ⅱ（個人情報研修会）講演会

テーマ：地域での見守り活動における個人情報保護と利活用について

講師：岡本 正さん

（東京弘和法律事務所 スペシャル・カウンセラー、弁護士・博士（法学）
岩手大学地域防災研究センター客員教授、
北海道大学公共政策学研究センター上席研究員）

日時：令和3年12月2日（木）13:30～15:00

場所：伊賀市文化会館 さまざまホール

対象：民生委員児童委員、テーマに興味のある方

参加者数：448名

（内訳）伊賀市民生委員児童委員連合会	271名
名張市民生委員児童委員連合会	164名
一般参加・関係者	13名

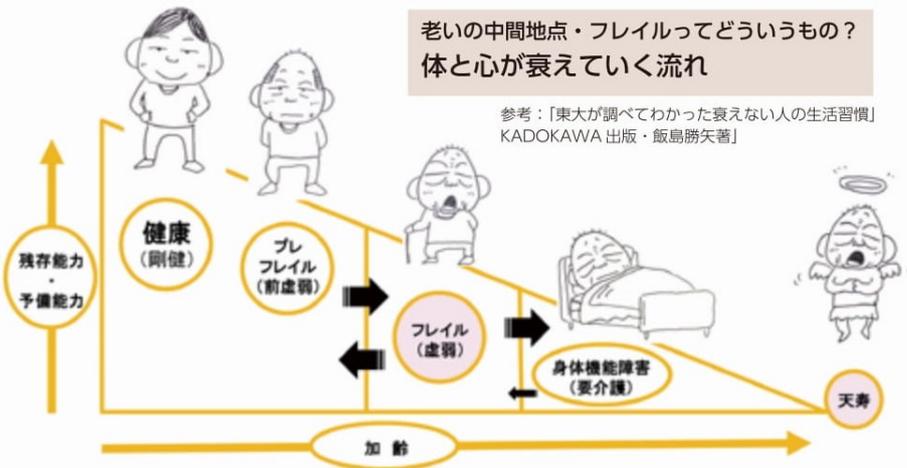


■ 社会参加している人は、
うつ病のリスクが7分の1減に！

「つながり」と「健康」は、どのように関連しているのでしょうか。社会参加している人は、していない人に比べ、生活満足度や自尊心が高く、精神的健康状態が良いことが多いとの研究で明らかにされています。また、同居の人以外との交流が週1

老いの中間地点・フレイルってどういうもの？ 体と心が衰えていく流れ

参考：「東大が調べてわかった衰えない人の生活習慣」
KADOKAWA 出版・飯島勝矢著



回末満の人は、健康のリスクが高まるという調査結果もあります。

東京都医師会は、コロナ禍で過剰な自粛による健康寿命への影響について、警鐘を鳴らしました。人は衰えていくとき、健康な状態からフレイル（虚弱）を経て、介護が必要な状態になります。健康な状態を長続きさせるためには、フレイルになる前の段階で、少しでも健康な状態に戻す必要があります。



■ 普段の「暮らしぶり」を大切に

では、どうすればいいのでしょうか。特別なことは必要ありません。健康に過ごすためには、普段からの公民館活動、老人クラブ、近所での集い、カラオケ、ゲートボール、グラウンドゴルフ、趣味の活動、友だちとおしゃべりや外食、散歩といった日常的な娯楽も社会性の維持に役立ち、身体機能が維持され、介護予防につながることがわかりました。健康に過ごすには、普段からの「暮らしぶり（つながり）」を大事にしてください。

■ 伊賀の地域活動支援の現場から

● 「お客さまサロン」は誰のため？

ふれあい・いきいきサロンの中には、「おもてなしをして、サロンでゆっくりと過ごしてもらいたい」とボランティアさんが頑張りすぎて、サロンが継続できなくなるなどの事例も出ています。サロンにきている人の中にも、「おもてなしをもらいたい」という声を聞くことがあります。でも、酒井さんのお話からも、もしかしてそのような「お客さまサロン」は、その人の生きがいや役割、社会参加の機会を奪ってしまっているのかもしれない。

「誰からも期待されない」「自分が必要とされていない」「役割がない」と感じることは、とても寂しいことです。誰かが負担を感じるのではなく、みんなが少しずつ、できることを担い合う関係性がいいですね。

● つながり、支えあって「あなたも、まちも、いきいき！」

ある地域のサロン参加者Aさん（70代男性）は、地域で担い手養成講座を開催したところ、自主的に受講されました。その後、「見守り支援員」に認定され、さまざまな講座や研修に参加したり、自分の作った野菜を寄付するなど、地域活動に積極的に協力してくれるようになりました。Aさんがいきいきと変わっていく姿を見て私も嬉しかったですし、社会参加ができるきっかけが大切だと思いました。

普段からの「暮らしぶり（つながり）」を充実するためには、雑談などの会話から、地域や人に関心を寄せることから始められます。みなさんも、普段の暮らしを大切にしてくださいね！



地域福祉コーディネーター
奥田詩織

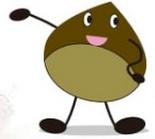


10月30日(土)に、「いが見守り支援員養成公開講座」を開催しました。酒井保さんのご講演内容をご紹介します。

『身近な地域を “お互いさま”で 支え合うために』



【講師】
ご近所福祉クリエイター
酒井 保さん



■人生100年時代に向けて

日本人の平均寿命は、男性が81・61歳、女性が87・74歳と毎年伸び、女性の過半数が90歳まで生きる時代となりました。また100歳以上の高齢者は86,000人を超え、過去最多の人数に増えています。高齢者が、社会を支える時代になりました。

■国民の3人に1人が65歳以上

「2025年問題」

2025年は、団塊の世代が75歳以上の「後期高齢者」になる年です。2025年には、後期高齢者が約2,200万人を超えると予想されており、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、超高齢社会に突入します。後期高齢者が増え、社会の人口構造が変わり、医療や介護などの社会保障費の増大が懸念されています。これが「2025年問題」と言われているものです。そしてこの問題は、2025年から始まり、そのあと40年、50年先まで続く問題なのです。

■「2025年問題」は、誰の問題？

では、これは誰の問題でしょうか。介護や医療が必要な高齢者が増える、支える人や仕組みが必要になってきます。社会は支え合いで成り立っています。「2025年問題」は高齢者だけの問題ではなく、将来の社会を担う子ども問題でもありません。そのため、それぞれができることを考えていかなくてはなりません。

地域住民がまずやらなければならぬ解決の糸口は、健康であること。健康であると、自分や家族、地域社会にとっても負担を減らすことができます。

■健康で長生きするためには？

「健康寿命」を伸ばすことが大事と言われています。健康で長生きするためには、運動の習慣や日々の栄養バランスの取れた食事が大事といえます。そのなかで、東京大学の研究チーム(高齢社会総合研究機構)が出した結論は、「つながり」でした。人間関係、社会性、地域の支え合いなど、地域につながる活動に積極的に参加する姿勢が大切です。

そして、社会性は地域活動によって補われます。社会性と社会参加は異なり、社会性に「役割」をつける、社会参加になります。役割を持つて参加することが大切です。

各地で行われているふれあい・いききサロンは、お年寄りの社会性を支援する場であり、そこを社会参加の場となるように考えてみてください。お茶配り、座布団並べなどをお願いするなどして、お客さんにしていただく。その後は、「ありがとう」「助かりました」と声かけしてください。「ありがとう」と言われる回数が増えるのは、嬉しいですね。

健康で長生きするためには

つながり

つながり・社会性
地域支え合い

(東京大学研究チーム「高齢社会総合研究機構(IOG)」)

◆伊賀市内の見守り・声かけ活動一覧

令和4年3月末現在(社協把握分)

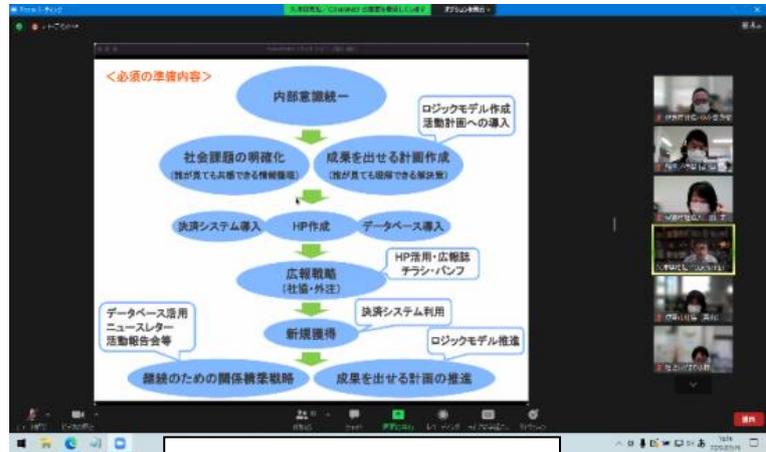
	エリア	自治協	自治会	名称	頻度	会合	活動内容	備考	
1	上野	西部	丸之内	白鳳高校・民生委員見守り活動	月1回	なし	見守り声かけ活動、訪問品の配布等、交流	令和2～3年度はコロナのため休止	
2		小田	-	小田見守りた〜い	週1回		週1回 15:00～16:00 下校時見守り		
3		諏訪	-	諏訪見守り隊	日常的	年数回		日常の見守り、年数回会合あり	
4				すわの郷	毎週木曜日	あり	一人暮らし高齢者や高齢世帯、中間独居等への食事の提供と見守り活動		
5		猪田	-	猪田ひだまりの会	日常的	月1回	民生委員との情報共有、企画、研修	R3年度は、コロナの感染状況に応じて、実施	
6		依那古	-	依那古地域福祉ネットワーク会議	日常的	あり	回覧等での見守り・声かけ活動		
7		神戸	朝日ヶ丘町	朝日ヶ丘町支えあいネットワーク	日常的	あり	暮らしの助け合い活動としての見守り(無償:会員登録者対象)		
8			比土	比土たすけあいお手伝いの会	日常的	会長の招集	見守り声かけ活動	規約あり	
9		古山	-	古山地区 区単位での高齢者支援活動	日常的	不定期	各区の実情に応じた日常の見守りなど	令和元年度4月:設立 *名称はない	
10		花垣	白樫	白樫:福祉・防災ボランティアの会	日常的	年1回	日常の見守り (草刈り等の助け合い活動もあり)	R3年度は、コロナの感染状況に応じて、実施	
11	きじが台	きじが台	きじが台自治協 地域ケア部会 「きじが台ふれあいの会」	日常的	不定期	一人暮らし高齢者を対象に見守り・声かけ活動(年4回ゴミ袋配布)			
12	いがまち	中柘植	中柘植たすけ愛きずなの会	日常的	隔月(奇数月)	隔月で定例会を実施、見守りが必要な方の情報共有し、対応を相談			
13			山出	山出区たすけあいボランティアの会	週1回	不定期	週1回高齢者世帯のゴミ捨ての見守り活動、定例会では情報共有し、対応を相談		
14		柘植	倉部	倉部見守りネットワークの会	月1回	なし	班ごとに月1回の見守り活動を行い、情報共有をおこなっている		
15			小杉	小杉見守り隊	日常的	年2回(4, 10月)	年2回で会議を実施、日常的な見守りや訪問、情報共有をおこなっている	構成員:区長・組長・民生委員・ボランティアなど	
16		西柘植	柏野	ボランティア絆	日常的	月1回	地域会議を実施し、見守りが必要な方の情報を共有し、対応を相談		
17	壬生野	壬生野 まち協	通学・夜間パトロール	昼夜週1回	年2回	まち協防犯防災部会内の活動、児童・学生を対象とした地域の巡回をおこなっている			

	エリア	自治協	自治会	名称	頻度	会合	活動内容	備考
18	島ヶ原	島ヶ原	-	島ヶ原福祉協力員	日常的	研修会 年2回	日常生活の中で、一人暮らし高齢者や高齢世帯等課題を持つ人の日常的見守りと支援活動	構成員：正副区長・組長など
19	阿山	玉滝	-	玉滝地域福祉ネットワーク会議	随時	毎月定例会	「わたしの安心シート」の全戸配布、福祉部会・民生委員による定期的な更新の確認を実施。	
20		河合	河合	河合地域住民自治協議会福祉部会	日常的	2ヶ月に1回	空き家や高齢者宅等の見守りマップ作成及び日常的な見守り活動を地区単位で実施。	
21	大山田	山田	-	山田地域住民自治協議会健康・福祉部会	隔月	年4回程度	健康・福祉部会の部会メンバーが、各地域の一人暮らし高齢者を奇数月に訪問し、見守りを実施	
22		阿波	-	阿波まごのて号	週1回	年4回程度	買い物の機会の提供と見守り	令和2～3年度はコロナのため休止
23	青山	博要	-	博要地域福祉ネットワーク会議	随時	年3回	日常の見守り 年3回の定例会で情報共有	
24		矢持	-	矢持住民自治協議会	日常的	月1回	日常の見守り及びサロンでの見守り 地域会議で情報共有や報告等を行う	
25		桐ヶ丘	-	桐ヶ丘地区高齢者・障がい者互助ネットワーク委員会	-	年2回	支え合い体制支援システム・アプリでの情報共有	日常生活支援事業を実施
26				桐ヶ丘自治会	随時		組長が広報配布時等に見守り・声かけを民生委員・児童委員と情報共有して実施。民生委員・児童委員は月1回独居高齢者宅を訪問。	

地域福祉の活動を支えるためのファンドレイジング研修会

I はじめに

これまで日本の地域福祉団体においては、自治体からの公的財源や助成金を主な財源としたサービス提供、団体運営がこなわれてきた。しかし、昨今、自治体の財政状況の厳しき等もあり、公的財源による新たなニーズ対応が困難となるなど、十分な地域福祉活動がおこなえない



ZOOMをつかった研修会の様子

いことが増えている現状がある。このような中、地域福祉活動をおこなっている団体においては、これらの財源がなくなったとしても、継続的かつ安定的に地域のニーズへの支援活動をおこなう使命があるものの、十分な財源を確保できている団体はごく一部であり、どの団体も財源確保に大きな悩みを抱えている現状になっている。

そこで、伊賀市社会福祉協議会では、地域福祉活動をおこなう団体が、必要な財源を獲得できるためのファンドレイジングの推進に取り組んでおり、事業運営の成功事例や資金調達手法を学ぶ研修会を定期的を実施している。

今年度については、この研修会を利用して、下記3団体について、継続的で安定的な支援活動が実現できるようにするため、地域福祉コーディネーターと一緒に、「団体の目標はなになのか」「団体が取り組むべき課題はなににか」「活動に必要な財源はどれくらいか」等を整理し、3団体が今後活動していく『みちしるべ』を一緒に作成した。

II 研修会で使用した3団体の状況分析内容

【1. 陽だまり文庫】

桐ヶ丘地域では、団地内の少子高齢化で近所付き合いが希薄化している。それに伴いひきこもり、いじめ、



家庭内暴力など親子を取り巻く様々な課題が潜在化しているといわれている。そんな中で陽だまり文庫は、子育て家庭の生活上の問題の減少に取り組み、最終的に「10年以内に桐ヶ丘を

伊賀市で一番子育てがしやすい地域にする」ことを目標に、世代を問わず「ホッ」と一息つけるような居場所作りをおこなっている。

最近では書店とタイアップし、書店がない桐ヶ丘で本の予約、販売、相談を行ったり、親子で参加できる読み聞かせ会を定期的で開催したりと、積極的に活動しており、その結果桐ヶ丘でオープンしてから2年、口コミで広まり来客数、年会員ともに徐々に増えている。

運営としては主にコーヒー・紅茶代、年会員の会費を運営費としているが、現在は支出を売上で賄うことができていない現状である。また、本来の目標でもある親子や子どもの来店が少なく、周知がうまく行えていないことが課題として挙げられている。

まずは地域との連携を強化し、子どもや親子に対する周知を行いながら、利用者を増やし、目標の達成と資金繰りを同時並行で進めていくことをサポートしていきたい。

【2. 久米ひだまり】

久米地域では、住民自治協議会の健康福祉部会が中心となり、地域ぐるみでの子育て支援に取り組んでいる。学習支援と地域食堂、健康体操の3つの活動を柱に、年齢や障がい



の有無に関わらず、すべての久米地域に住む住民にとっての居場所づくりをおこなっている。

現在は、「久米地域を伊賀市内で一番住んでいて良かったと思える地域にする」を長期目標に掲げ、日々楽しみ、和気あいあいと仲間を増やしながら取り組みを進めている。

コロナ禍においては、さらに地域ぐるみでの子育ての必要性を痛感することとなった。

例えば学校の授業でもオンライン化が進んだことにより、“オンライン環境に対するアフターフォローの必要性”などといった新たな課題も浮き彫りとなった。共働き家庭の増加に伴い、親がすぐに子どもの困りごとに寄り添えないような家庭もあり、タブレット操作に戸惑っていても、親からの即時的なサポートをうけることが難しい児童もいる。そんな時、地域の中に「すぐに頼ることができる大人」がいることは、子どもたちの不安や心細さの解消につながる。

現在は、市の「キラッと輝け！地域応援補助金」を主な活動資金としているほか、地元企業とのつながりづくりをおこなう中で、『物品寄付』などといった形で協力を得ている。

将来的にNPO法人化を視野に入れていることから、令和3年度は団体として解決したい課題や、達成したい目標、未来予想図を明確にしながら、関わる全ての人たちで同じゴールを目指すよう、核となるメンバーで意思統一をおこなった。

今後も、より多くの地域住民に活動を認知いただき、仲間とともに居場所づくりをすすめるお手伝いをしていきたい。

【3. NPO 法人 杜のカフェいこいこ】

柘植地域には、隣近所の憩いの場の減少や担い手の高齢化などの地域課題がある。平成 29 年、福祉に関して熱い思いをもっている有志が資金を借入れ、旧保育所を改修し“地域の集いの



ボリューム満点のランチ

場”として NPO 法人 杜のカフェいこいこを立ち上げた。ランチ営業や隣のデイサービスの昼食提供で安定した収入は確保できたが、有償ボランティアの時給や借入金の返済、配食サービスを開始するための資金・人材の確保が今後の大きな課題となっている。

令和 3 年度は、理事の方に聞き取りをおこない、団体として解決したい社会課題や達成したいゴールを整理するなかで「柘植に住む高齢者と子どもたちが元気に安心して過ごせるようにする」ことを最終目標とした。また団体の現状（人員体制、お金の動き、関係機関など）を改めて整理し、今後必要となるものや足りないものなどの課題の洗い出しをおこなった。

今後は、ミッションを実現させるための具体的な活動について整理をおこない、取り組む主体の役割分担や事業計画を作成しながら推進していきたいと考えている。また財源・人材確保の面でも、バザーなどの開催や寄付の協力依頼、またスタッフなどの協力者を募っていくなど、杜のカフェいこいこのミッションに“共感”してもらうための啓発をおこなっていききたい。

Ⅲ まとめ

今回の研修を通して、団体が活動する地域課題を把握し、これから取り組むミッションを整理することで、支援の対象者や活動の目的を絞ることができた。それぞれの団体が取り組むミッションとしては、陽だまり文庫は、「10 年以内に桐ヶ丘を伊賀市で一番子育てがしやすい地域にする」、久米ひだまりは「久米地域を伊賀市内で一番住んでいて良かったと思える地域にする」、杜のカフェいこいこは「柘植に住む高齢者と子どもたちが元気に安心して過ごせるようにする」と長期的に取り組むミッションを明確にすることで、団体がどのような目的で活動しているのか住民に周知し、共感を得ることで活動の応援者や参加者を増やしていくことができると考える。今後は今回実施した 3 団体だけでなく、CD が支援しているすべての地域で社会課題解決ツールとしてファンドレイジングの手法を活用し地域支援に活かしていきたい。

福祉教育推進協議会及び福祉教育推進協議会研修会

第1回 福祉教育推進協議会

日 時：令和3年11月4日(木) 14:00~15:30
 場 所：伊賀市総合福祉会館2階 会議室①②
 参加者：10名(福祉教育推進協議会委員)
 内 容：令和2年度 福祉教育推進協議会の活動報告
 第4次地域福祉活動計画について
 令和3年度 福祉教育推進協議会の計画
 福祉教育推進協議会研修会について

第2回 福祉教育推進協議会

日 時：令和4年3月23日(水) 14:00~15:30
 場 所：伊賀市総合福祉会館2階 会議室①②
 参加者：8名(福祉教育推進協議会委員)
 内 容：福祉教育推進協議会研修会について
 ・アンケート結果報告について
 ・研修会ふり返り
 福祉教育プログラム実績報告
 令和4年度 福祉教育推進協議会計画
 地域の実践事例について

福祉教育推進協議会研修会 (Zoom開催)

日 時：令和4年1月20日(木) 15:15~16:30
 場 所：伊賀市総合福祉会館2階 会議室等
 参加者：29名
 (小中高等学校、社会福祉法人、
 民生委員児童委員、福祉教育推進協議会委員)
 内 容：福祉教育連携事例報告 / 西柘植小学校
 学習支援の取り組みについて
 小学生のための防災ハンドブック紹介
 非常持ち出し袋について



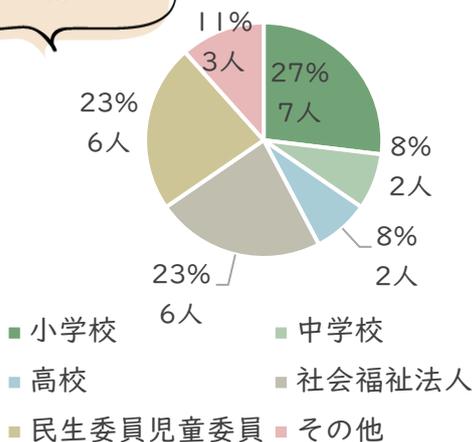
福祉教育プログラムの実践について

～西柘植小学校での出会いの授業を通じて～
 福祉教育推進協議会 研修会【事例報告】
 令和4年1月20日(木)
 伊賀市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター 篠田 梨夫

福祉教育推進協議会研修会 アンケート結果

26件の回答

所属



自由記述の一部

- ・現場、地域のニーズを拾いあげた上での取り組みを展開されているように感じました。
- ・子どもたちの興味・関心を上手に引き出す形で、さらに発展させていくという取り組みはすばらしいと感じました。
- ・過去の事例なども聞きたい。
- ・子どもの学習・生活支援の場があることを知った。

◆令和3年度 福祉教育プログラム実践地域 ※社協共催分

エリア	自治協 民協	実施したプログラム内容	支援 回数
上野	上野 東部	・上野東部地区住民自治協議会自主防災部会…カードゲーム教材「クロスロード」 避難所運営ゲーム「避難所HUG」	1
	上野 東部	・上野東部地区民生委員児童委員協議会…カードゲーム教材「クロスロード」	1
	猪田	・ひだまりの会…カードゲーム教材「クロスロード」	1
	新居	・西高倉おたのしみ会…カードゲーム教材「クロスロード」 ・支え合い講座…「あなたのまちで、やさしさを広げるために」	2
	城西	・城西地区民生委員児童委員協議会…カードゲーム教材「クロスロード」	1
	丸山	・丸山地区民生委員児童委員協議会…カードゲーム教材「クロスロード」	1
伊賀	西柘植	・柏野ふれあい福祉会めだかの学校…カードゲーム教材「クロスロード」	1
	いがまち	・いがまち地区民生委員児童委員協議会…新聞スリッパ&がれき体験・お☆ふくろめし ・介護者サロン「ひまわりカフェ」…カードゲーム教材「クロスロード」	2
島ヶ原	島ヶ原	・島ヶ原地区民生委員児童委員協議会…カードゲーム教材「クロスロード」	1
大山田	阿波	・阿波地域住民自治協議会地域ケアネットワーク会議「まごのて会議」 …カードゲーム教材「助け合い体験ゲーム」	1
	大山田	・大山田地区民生委員児童委員協議会…カードゲーム教材「クロスロード」	1
青山	高尾	・高尾住民自治協議会健康福祉部会…カードゲーム教材「助け合い体験ゲーム」	1
その他		・手話奉仕員養成講座…ボランティアについて・カードゲーム教材「クロスロード」	1
		・地域出前講座(市社会教育推進員企画)…災害時に役立つサバイバルアイテムづくり	1
計			16

◆令和3年度 福祉教育プログラム実践校 ※社協共催分

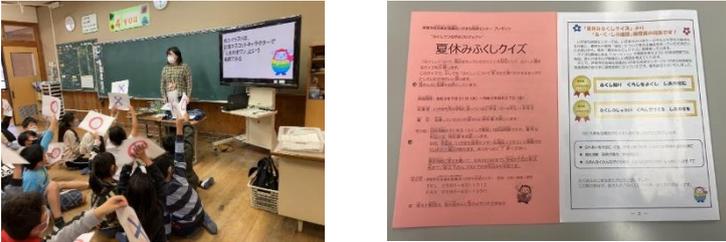
小学校	実施したプログラム内容	支援回数
上野西小学校	・社協のしごと ふくして何? ・ふくしクイズ ・アイスブレイク	3
久米小学校	・社協のしごと ふくして何? ・アイスブレイク ・出会いの授業(大橋さん)	2
上野北小学校	・社協のしごと ふくして何? ・1分間ゲーム ・探してみよう!ユニバーサルデザイン ・出会いの授業(大橋さん) ・カードゲーム「ぼうさいダック」、「防災ハンドブック」、「新聞スリッパ」	4
府中小学校	・出会いの授業(大橋さん) ・違いの理解ワーク ・ユニバーサルデザイン ・高齢者疑似体験など(車いす体験・手話体験・福祉車両体験)	3
依那古小学校	・社協のしごと ふくして何? ・ふくしクイズ	1
成和東小学校	・社協のしごと ふくして何? ・ふくしクイズ ・アイスブレイク ・カードゲーム教材「クロスロード」 ・出会いの授業(大橋さん)	3
三訪小学校	・「働く」ことについての福祉教育 ・出会いの授業(畠中さん井戸さん)	2
柘植小学校	・夏休みふくしクイズおよび福祉標語	1
西柘植小学校	・出会いの授業(橋本さん伊倉さん) ・夏休みふくしクイズおよび福祉標語	2
壬生野小学校	・出会いの授業(畠中さん井戸さん) ・夏休みふくしクイズおよび福祉標語	2
島ヶ原小学校	・社協のお仕事紹介 ・出会いの授業(大橋さん)	2
阿山小学校	・出会いの授業(加藤さん)	1
青山小学校	・青山小学校3年生社協のお仕事紹介及び施設見学 ・あおやま ちいき・ふくしクイズ	2
計		28

中学校名	実施したプログラム内容	支援回数
柘植中学校	・夏休みふくしクイズおよび福祉標語	1
霊峰中学校	・夏休みふくしクイズおよび福祉標語 ・高齢者疑似体験とアイマスク体験	2
計		3

高校名	実施したプログラム内容	支援回数
伊賀白鳳高等学校	・ユニバーサルデザイン ・災害時に役立つサバイバルアイテムづくり ・認知症サポーター養成講座 ・出会いの授業(大橋さん) ・レクリエーション実践を通じた学び	6
計		6

★学校への支援回数・・・計 37回

福祉教育プログラム実践状況(学校) ※社協共催分

No.	福祉教育プログラム	学校名/学年
1	カードゲーム 「ぼうさいダッグ」	<p>カードゲーム「ぼうさいダッグ」 上野北小学校4年生 伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科 生活福祉コース1年生</p> 
2	災害防災 / 災害時に役立つ サバイバル アイテムづくり	<p>「防災ハンドブック」「新聞スリッパ」上野北小学校4年生 「新聞スリッパ」「空き缶コンロ」「段ボールトイレ」 「ふるしきリュック」「緊急持ち出袋」 伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科生活福祉コース1年生</p> 
3	ふくしクイズ	<p>「夏休みふくしクイズ」 柘植小学校5・6年生 / 西柘植小学校5・6年生 壬生野小学校5・6年生 / 柘植中学校全生徒 / 霊峰中学校全生徒 「あおやま ちいき・ふくしクイズ」 / 青山小学校全児童 「ふくしクイズ」 上野西小学校4年生 / 依那古小学校4年生 / 成和東小学校4年生</p> 
4	障がい者理解/手話について学ぶ/ちがいの理解	<p>「手話体験」 府中小学校4年生 「ちがいの理解ワーク」 府中小学校4年生</p> 
5	アイスブレイク/ レクリエーション実践	<p>「バースデーチェーン」 上野西小学校4年生 / 久米小学校4年生 上野北小学校4年生 / 成和東小学校4年生 伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科 生活福祉コース1年生 「折り紙/動くはらぺこあおむし」 伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科 生活福祉コース1年生</p> 

福祉教育プログラム実践状況(学校) ※社協共催分

6	<p>探してみて！ ユニバーサルデザイン</p>	<p>「探してみて！ユニバーサルデザイン」 上野北小学校 4年生 「ユニバーサルデザイン」 府中小学校 4年生 伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科 生活福祉コース 1年生</p>	
7	<p>カードゲーム教材 「クロスロード」</p>	<p>「クロスロード」 成和東小学校 4年生</p>	
8	<p>社協のしごと ふくして何？/ 「働く」ことについて</p>	<p>「社協のしごと ふくして何？」 上野西小学校 4年生 / 久米小学校 4年生 上野北小学校 4年生 / 依那古小学校 4年生 成和東小学校 4年生 「社協のお仕事紹介」 / 島ヶ原小学校 3年生 「社協のしごと及び施設見学」 / 青山小学校 3年生 「働く」ことについて / 三訪小学校 5年生</p>	
9	<p>認知症（キッズ） サポーター養成講座</p>	<p>「認知症サポーター養成講座」 伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科 生活福祉コース 1年生</p>	
10	<p>高齢者疑似体験 / 福祉車両体験</p>	<p>「高齢者疑似体験」 府中小学校 4年生 「高齢者疑似体験とアイマスク体験」 霊峰中学校 1年生 「車いす体験」 府中小学校 4年生 「福祉車両体験」 府中小学校 4年生</p>	
11	<p>出会いの授業</p>	<p>「大橋さんとの出会い」 久米小学校 4年生 / 上野北小学校 4年生 府中小学校 4年生 / 成和東小学校 4年生 島ヶ原小学校 5年生 伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科 生活福祉コース 1年生 「畠中さん・井戸さんとの出会い」 三訪小学校 5・6年生 / 壬生野小学校 4年生 「橋本さん・伊倉さんとの出会い」 西柘植小学校 4年生 「加藤さんとの出会い」 阿山小学校 4年生</p>	  



伊賀市の募金百貨店プロジェクト 協力企業・店舗をご紹介します！



<p>龜匠 栲梗屋織居</p> <p>「おかゆ大福」</p> <p>1 個売り上げにつき 10 円を寄付 (税込 130 円)</p> 	<p>豊工事・上敷 百地畳店 一級畳技能士の店</p> <p>「新畳」</p> <p>1 枚売り上げにつき 10 円を寄付 (8,700 円～ (税別))</p> 
<p>やぶらちや 贈り物専門店</p> <p>「オリジナルトートバッグ」</p> <p>1 個売り上げにつき 20 円を寄付 (税込 770 円)</p> 	<p>伊賀流忍者店</p> <p>「子ども用忍者衣装9点セット」</p> <p>1 着売り上げにつき 100 円を寄付 (税込 6,600 円)</p> 
<p>一般社団法人 大山田農林業公社</p> <p>「忍×ボン」</p> <p>1 個売り上げにつき 3%を寄付 (税込 290 円～300 円)</p> 	<p>昔ながらの味 揚西がわ笑店 しよてん</p> <p>「コロッケ弁当」「コロッケの入ったお弁当」</p> <p>1 個売り上げにつき 10 円を寄付 (税込 600 円～)</p> 
<p>YAKITORI RESTAURANT 時代屋伊賀</p> <p>それぞれ前日までの予約に限り</p> <p>1 人前につき 50 円を寄付 (税込 1,478 円～)</p> 	<p>ベジタブルラボ vegetable lab</p> <p>「トマト」「中玉トマト」「ミニトマト」「いちご」「ブロッコリー」 「もち麦」「キャベツ」「アスパラ」「トマト鍋」「トマトスープパスタ」 「アスパラスープ」「トマトとえびのスープ」</p> <p>1 個売り上げにつき 3%～5%を寄付 (税込 80 円～)</p> 
<p>宮崎屋 養肝漬</p> <p>「宮崎屋にしか創れないベーグル」</p> <p>1 個売り上げにつき 10 円を寄付 (税込 250 円)</p> 	<p>鶏のっく 本舗 こけこっこほんぽ</p> <p>「オードブル」</p> <p>1 つ売り上げにつき 50 円を寄付 (税込 3,800 円～)</p> 
<p>ぽっこりするまら「伊賀・栲梗」へようこそ おかみさんの会</p> <p>「おかみさん御膳」</p> <p>1 食売り上げにつき 5 円を寄付 (税込 900 円)</p> 	<p>瑞福祥</p> <p>「開口笑」</p> <p>1 個売り上げにつき 5%を寄付 (税込 300 円)</p> 
<p>株式会社 谷石材</p> <p>「墓石」</p> <p>新規購入 1 基につき 500 円を寄付 (税込 33 万円～)</p> 	<p>泉豚 RAKUTON SINCE 2005</p> <p>「楽豚オリジナル 野菜ドレッシング」</p> <p>1 本売り上げにつき 10 円を寄付 (税込 500 円)</p> 

いづくしほだんこ

「伊賀青山川上ダムカレー」

1 食売り上げにつき
100 円を寄付 (税込 1,000 円)



メナードコンティクラブ
Menard Country Club
AOYAMA COURSE

「練習ボール」

1 ケース売り上げにつき
10 円を寄付 (税込 330 円)



風の杜 つみえ家

「生ビール中ジョッキ」

1 杯売り上げにつき 2 円を寄付 (税込 550 円)

「くし揚げ盛合せ」

1 皿売り上げにつき 5 円を寄付 (税込 830 円)



伊賀お茶と茶道具の店
老舗 **むらい萬香園**
ばんこうえん

「ぜんざい」「忍者ぜんざい」

1 個売り上げにつき
10 円を寄付 (税込 680 円)



福岡醤油店

「蔵出しお味噌汁」

1 つ売り上げにつき
10 円を寄付 (税込 540 円)



(株) サンセリテ
Sincerite
TVCM

「PR 動画の制作」

(企業・商品・サービス等の紹介)
1 動画作成につき 3% を寄付 (税込 30,000 円～)



百姓工房

「伊賀のお米を使ったカリカリかりんとう」

1 個売り上げにつき
15 円を寄付 (税込 300 円)



ホルモン五郎

「鬼盛りジョッキ」

1 杯売り上げにつき
50 円を寄付 (税込 1,100 円)



ホリカコ

株式会社 堀川商店

「安心・便利・お得『堀川商店』シェル車検」

車検実施 1 件につき
100 円を寄付 (税込 53,590 円～)



廣岡弘文堂

「個人印鑑」

1 本売り上げにつき
100 円を寄付 (税込 5,500 円～)



「腕時計デジ子交換」1 つにつき
100 円を寄付 (税込 1,100 円)



「土鍋っち」

KOUGETSU

1 つ売り上げにつき
10 円を寄付 (税込 1,900 円)



小川整備(株)

「ロータス車検」1 件実施につき 100 円を寄付
「タイヤ購入」(ブリヂストン・ヨコハマタイヤ)
1 本につき 10 円を寄付
「オイル交換」(モービルエンジンオイル)
1 ℓにつき 1 円を寄付
「福祉車両レンタルカー-貸し出し」1 日貸し出しにつき 100 円を寄付



三重ダイハツ

「車検」

車検実施 1 件につき
50 円を寄付



フードパントリー

生活にお困りの方に食べ物や生活用品を提供する支援活動



令和3年11月27日（土） 伊賀市総合福祉会館 駐車場

件数 21件（世帯）

スタッフ（社協5名、学生ボランティア1名）

令和4年1月29日（土） 伊賀市総合福祉会館 駐車場

件数 94件（世帯）

スタッフ（社協11名、民生委員児童委員・主任児童委員3名、
NPO法人 伝丸1名、ボランティア1名）

令和4年2月26日（土） 伊賀市総合福祉会館 駐車場

件数 105件（世帯）

スタッフ（社協14名、民生委員児童委員3名、NPO法人 伝丸1名、
学生ボランティア1名）



（アンケートから抜粋）

- ・ 野菜やゼリー、オムツもいただけたので、すごく助かりました。
- ・ 食料配布会に行くのが初めてで不安でしたが、すごく優しく親切な対応をしていただき嬉しかったし、すごく助かりました。
- ・ とても親切に対応して頂き、感謝しかありません。
- ・ アルバイトがなかなか見つからないのがつらい。
- ・ コロナのまん延防止措置で仕事が無くなった。見通しが立たない。（サービス業）

下宿学生食糧支援「いが学生エール便」



【目 的】新型コロナウイルスの影響により、学生が仕送りやアルバイトの収入減少などによって、食べ物や学費など、生活や教育の環境に問題が出ている。そこで、伊賀市出身の一人暮らしの学生を応援するために、食料品や生活用品などを詰め合わせた「いが学生エール便」を送ることで、生活を支援するとともに、地元への愛着感向上に繋げる。

【対 象】伊賀市出身の一人暮らしの学生（大学・短大・専門学校生等）

【提供内容】米、保存食、生活用品等

【申込期間】令和4年1月28日～令和4年12月23日

【予 算】伊賀市社協「コロナ対策緊急支援事業」・歳末たすけあい募金配分金事業

・利用状況（令和4年3月31日現在）

件数 168件

・協力企業

掘出工房わたせい、JA いがほくぶ、大山田農林業公社、百姓工房 伊賀の大地



アンケートから（抜粋）

「伊賀からの応援、ぬくもりを感じられたのが1番嬉しかったです」

「とても助かりました。すごく嬉しかったです」

「支援して頂いた皆さんの気持ちを忘れず、これからも頑張ろうと思います」

「アルバイトもできなくて大変なことも多いですが、夢を叶えるために頑張っています」

「故郷である伊賀の産品を頂き、とても懐かしい気持ちになり、これから勉学に励み、将来伊賀に貢献出来れば良いなと思いました」

伊賀市社協 だより

令和3年4月1日発行

No.181
4月号



安心して暮らせる地域づくりを応援します!

令和3年度 地域福祉コーディネーター

※()は配属地域センター



中森 研
(地域支援課長)



中西 正敏
(上野)



中小路 克彦
(上野)



奥田 詩織
(上野)



豊島 里奈
(上野)



小林 啓太
(いがまち)



篠田 梨央
(いがまち)



吉田 文江
(島ヶ原)



野田 守
(阿山)



山本 哲士
(阿山)



末廣 紀子
(大山田)



恒岡 三恵
(青山)



中川 健太郎
(青山)

コロナ禍での地域実践 ～あらたな挑戦、 ひろがる出会い～

令和4年5月発行

編集・発行  **伊賀市社会福祉協議会**
〒518-0829
三重県伊賀市平野山之下380番地5 伊賀市総合福祉会館 1階
☎0595(21)5866 / FAX0595(26)0002

